

【漁況】

【マアジ】

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成27年は15万2千トンとなりました。

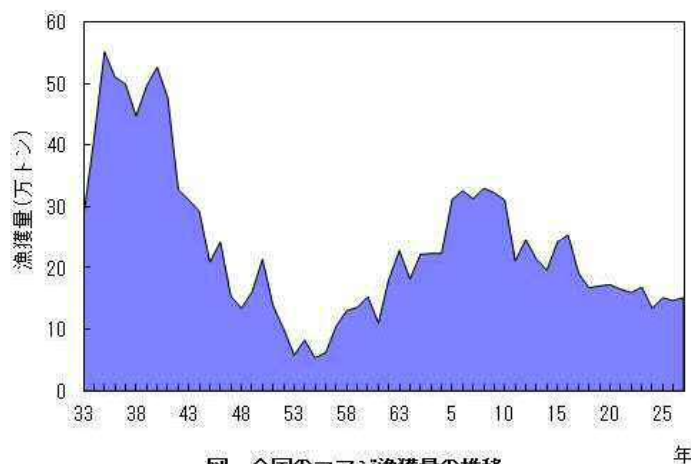


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の平成 29 年 7 ～ 9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、串木野沖、甑島周辺、天草沖で漁場が形成されました。

薩南海域では、野間池沖、坊津沖、枕崎沖、内之浦沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、マアジ仔・豆（0 歳魚：平成 29 年生まれ）主体に、期全体で 1,996 トンの水揚げで、前年の 373 % 及び平年の 419 % と非常に好調に推移しました。

3. 県内の平成 29 年 10 ～ 12 月期の見とおし

漁獲の主体はマアジ仔・豆（0 歳魚：平成 29 年生まれ）で、マアジ小（1 歳魚：平成 28 年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、近年の漁獲パターン等から予測しました。

例年、7 ～ 12 月はマアジ仔・豆（0 歳魚）が漁獲の主体となります。

7 ～ 9 月漁獲量と 10 ～ 12 月漁獲量には正の相関関係があり、前期が非常に好調に推移したことから、来遊量は引き続き前年・平年を上回ると考えられます。

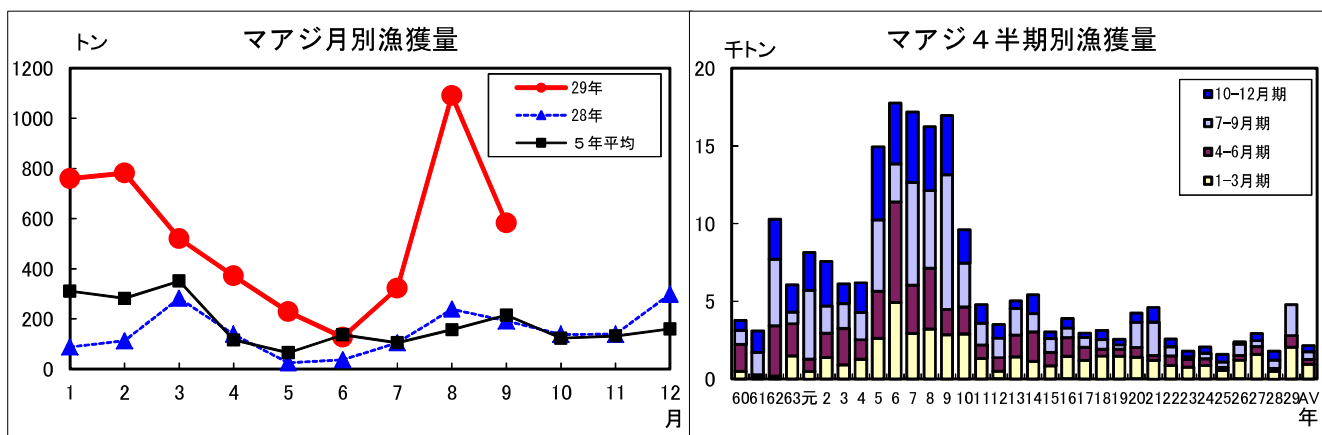


図 マアジまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値（AV）、平成 29 年 9 月 27 日までの水揚げ量を使用

[サバ類]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークに年々減少し、平成3年には26万トンとなりました。

平成5年から増加に転じ平成9年には85万トンとなりましたが、平成14年には28万トンまで減少しました。

平成18年に65万トンまで増加したあと減少傾向となりましたが、平成27年は前年を上回る55万7千トンとなりました。

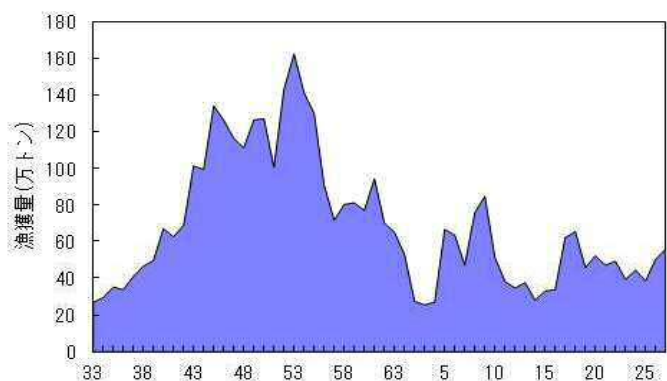


図 全国のサバ類漁獲量の推移

2. 県内の平成29年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島（内海）、甕島周辺、串木野沖、天草沖で漁場が形成されました。

薩南海域では、坊津沖、馬毛島、内之浦沖、野間池沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、ゴマサバ豆（0歳魚：平成29年生まれ）及びゴマサバ中（2, 3歳魚：平成27, 26年生まれ）主体に期全体で3,995トンの水揚げで、前年の194%及び平年の150%となりました。

3. 県内の平成29年10～12月期の見とおし

漁獲の主体はゴマサバ豆、小（0歳魚：平成29年生まれ）でしょう。

来遊量は、前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターン等から予測しました。

前期に豆銘柄の漁獲が多かったことから、引き続き豆、小銘柄が主体となると考えられます。

7～9月漁獲量と10～12月漁獲量には正の相関関係があり、前期が好調に推移したことから、来遊量は前年・平年を上回ると考えられます。

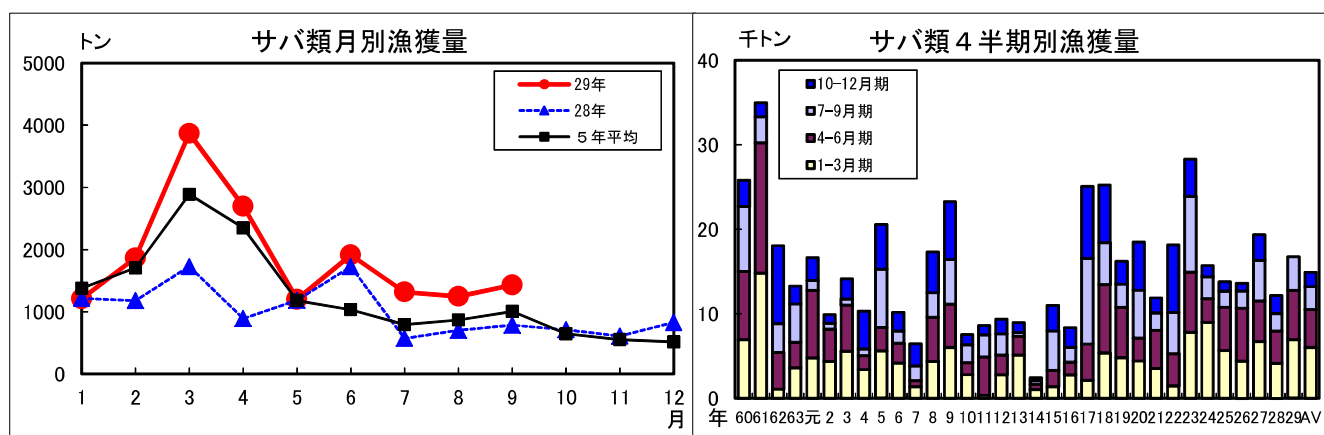


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成24～28年）の平均値(AV)、平成29年9月27日までの水揚げ量を使用

[マイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、平成14から22年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、平成25年以降は20万トンを超える漁獲が続く、平成27年には34万トンとなりました。

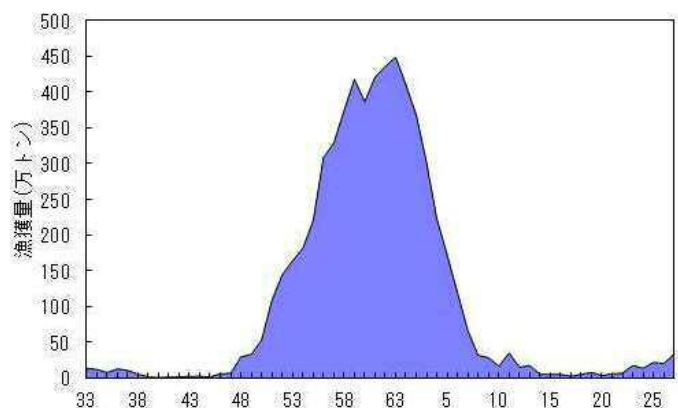


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

2. 県内の平成 29 年 7 ～ 9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺、天草西沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池沖、内之浦沖、坊津沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、小～中羽(0 歳魚：平成 29 年生まれ)主体に 432 トンの水揚げで前年の 26 %，平年の 29 %でした。

北薩海域の棒受網は、阿久根沖、長島沖、長島（内海）で漁場が形成され、37 トンの水揚げで前年の 27 %，平年の 48 %でした。

3. 県内の平成 29 年 10 ～ 12 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（0 歳魚：平成 29 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる 0 歳魚（平成 29 年生まれ）は、月によって前年を上回ったものの、4 月の加入以降低調な漁が続いているため、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

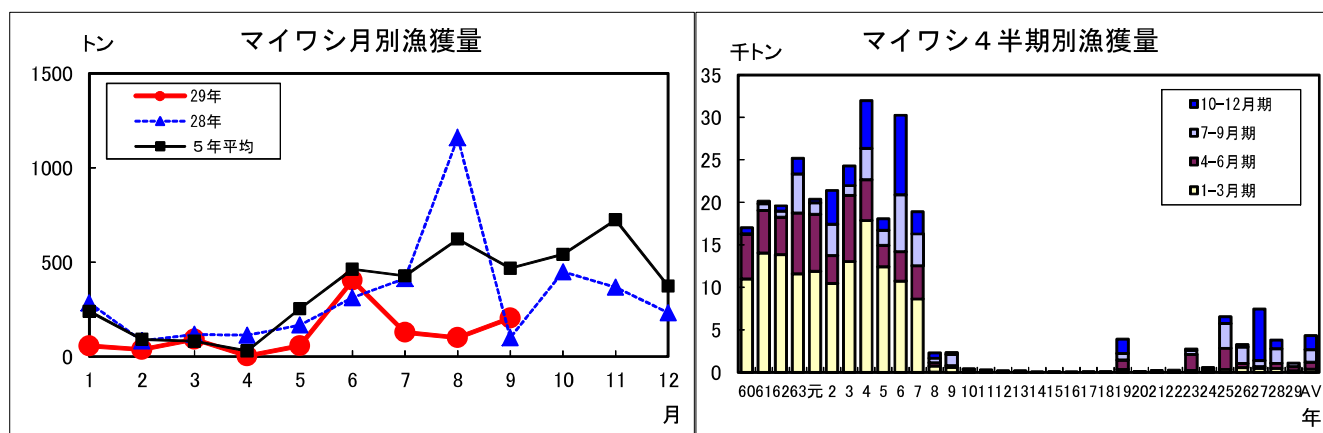


図 マイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値(AV)，平成 29 年 9 月 27 日までの水揚げ量を使用

[ウルメイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成27年は9万7千トンで昭和33年以降では最高の漁獲量となり、高い水準を維持しています。

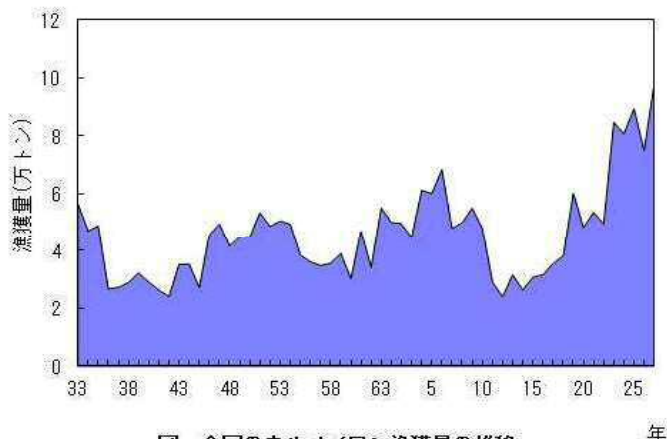


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 県内の平成29年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甑島周辺、天草西沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、内之浦沖、坊津沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小～中羽（0歳魚：平成29年生まれ）主体に1,379トンの水揚げで前年の66%、平年の57%でした。

北薩海域の棒受網では、阿久根沖、長島沖、長島（内海）で漁場が形成され、1,355トンの水揚げで前年の146%、平年の150%でした。

3. 県内の平成29年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（0歳魚：平成29年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

7～9月のまき網と棒受網の漁獲量と10～12月の漁獲量に正の相関関係があり、前期のまき網と棒受網の漁獲量が前年・平年を下回っていることから、今期の漁獲の主体となる0歳魚（平成29年生まれ）の来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

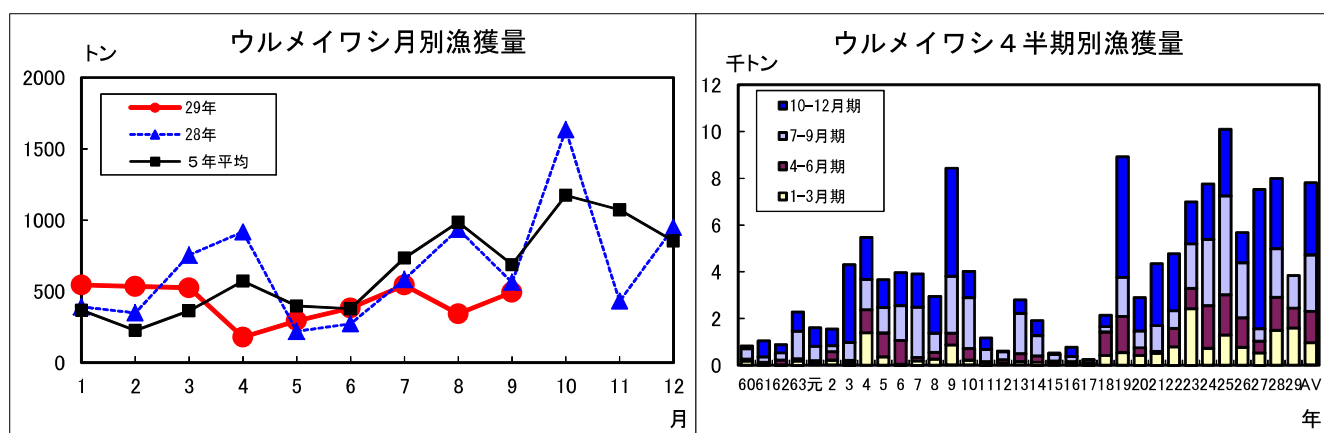


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成24～28年）の平均値（AV）、平成29年9月27日までの水揚量を使用

[カタクチイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成27年は16万9千トンとなりました。

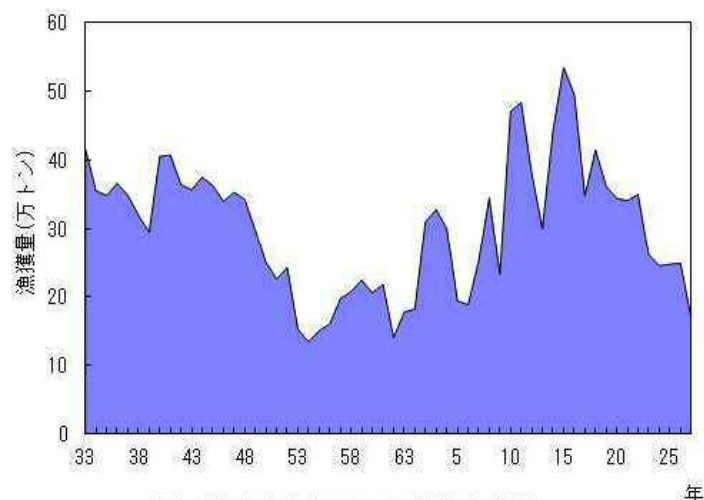


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の平成 29 年 7 ～ 9 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、長島（内海）に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、枕崎沖、内之浦沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、小～中羽（平成 29、28 年生まれ）主体に 831 トンの水揚げで、前年の 58 %、平年の 57 %でした。

北薩海域の棒受網では、阿久根沖、長島沖、長島（内海）で漁場が形成され、234 トンの水揚げで、前年の 149 %、平年の 92 %でした。

3. 県内の平成 29 年 10 ～ 12 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（平成 29 年生まれ）及び大羽（平成 28 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる中羽及び大羽の漁況は、8 月以降低調に推移しており、今後も低調な漁獲が見込まれることから、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

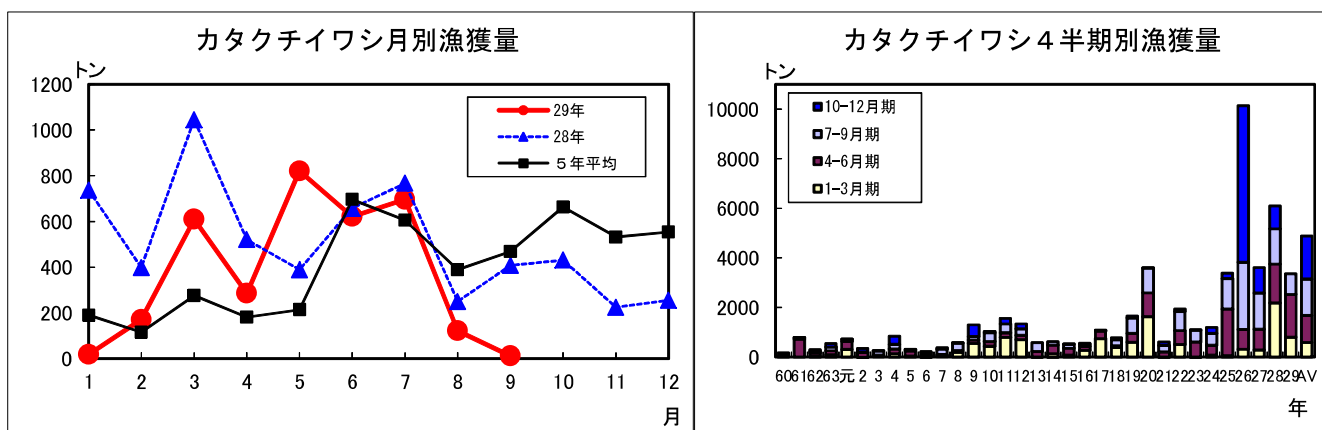


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値(AV)、平成 29 年 9 月 27 日までの水揚量を使用

[イワシ類参考資料]

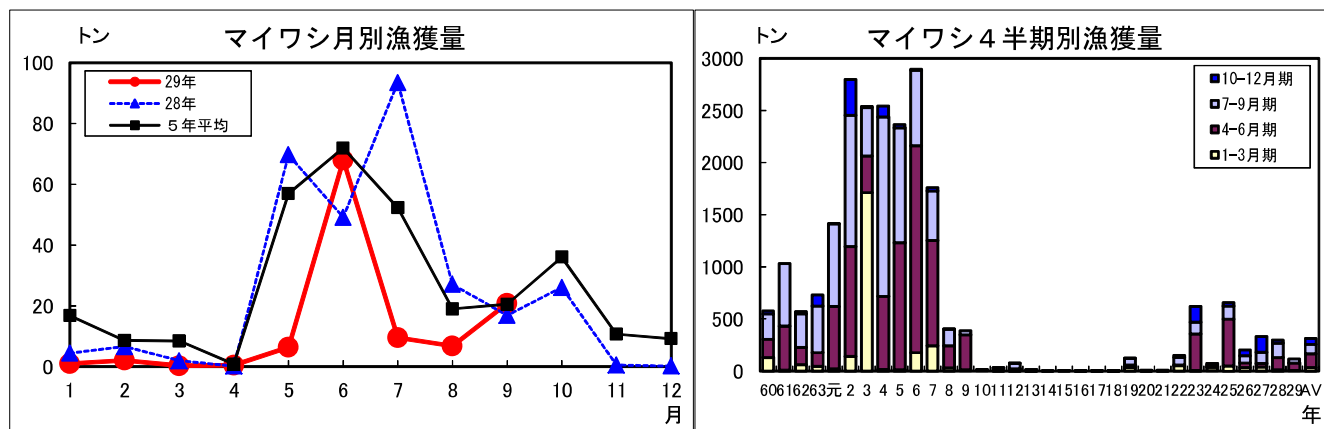


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

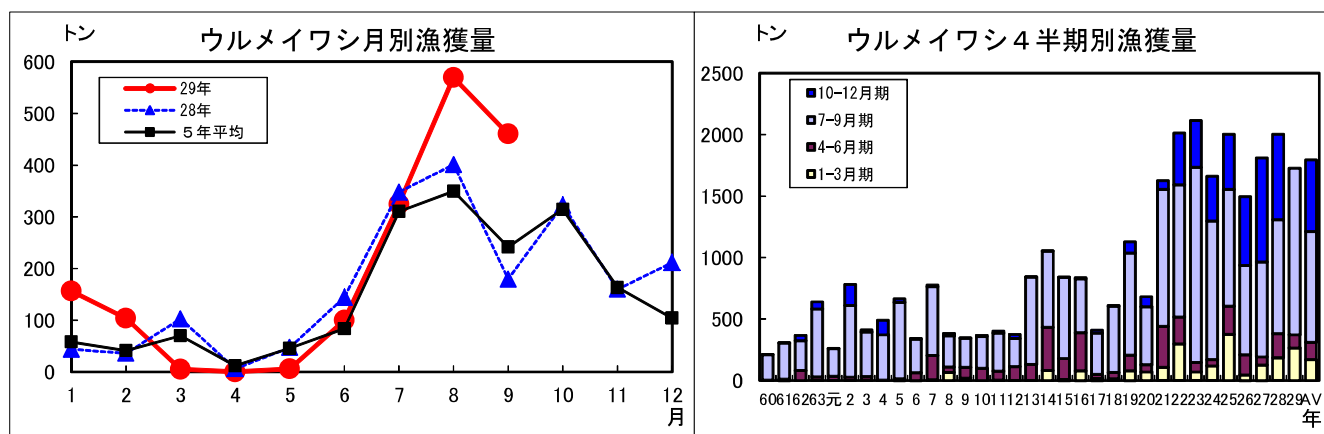


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

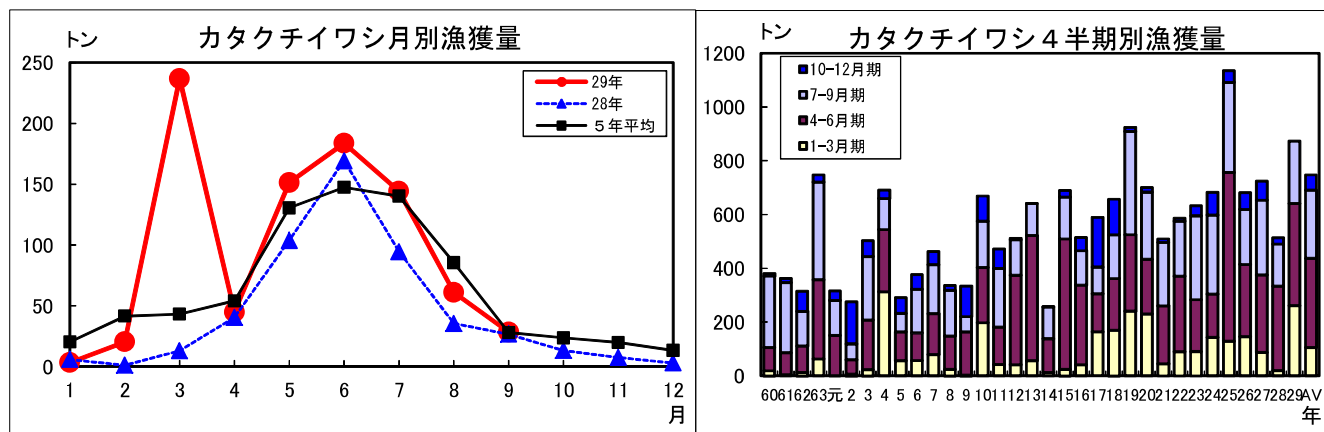


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成24～28年)の平均値(AV), 平成29年9月27日までの水揚量を使用

[参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ、モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成 29 年 7 ～ 9 月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成 2 年の 21,700 トンをピークに急減し、平成 6 年以降は、1,500 トンから 5,000 トンの間での推移しており、平成 28 年は 4,943 トンとなりました。

4 港計のまき網では、種子島東、臥蛇島、西新曾根でクサヤモロ豆、クサヤモロ小主体の漁場が形成されました。期全体で 291 トンの水揚げで、前年の 21 % 及び平年の 48 % でした。

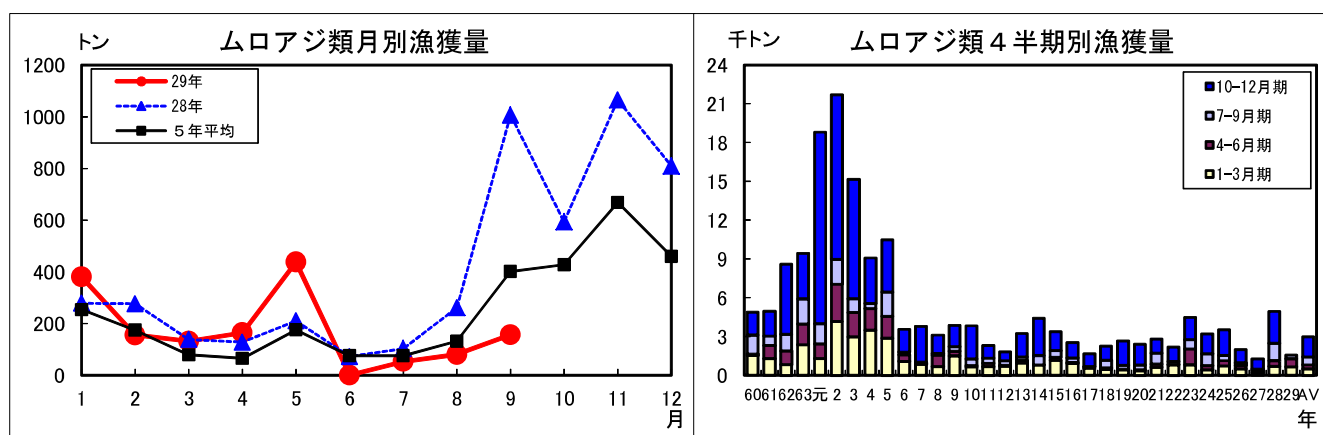


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値(AV)，平成 29 年 9 月 27 日までの水揚量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成 29 年 7 ～ 9 月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の 5,300 トンをピークに一旦減少し、平成 7 年に 4,400 トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成 20 年に一旦増加したあと再び減少傾向を示しましたが、平成 28 年は 2,442 トンと、平成 12 年以降最も多く漁獲されました。

4 港計のまき網では、屋久島南、草垣でオアカムロ中、オアカムロ中小主体の漁場が形成されました。期全体で 313 トンの水揚げで、前年の 130 % 及び平年の 167 % でした。

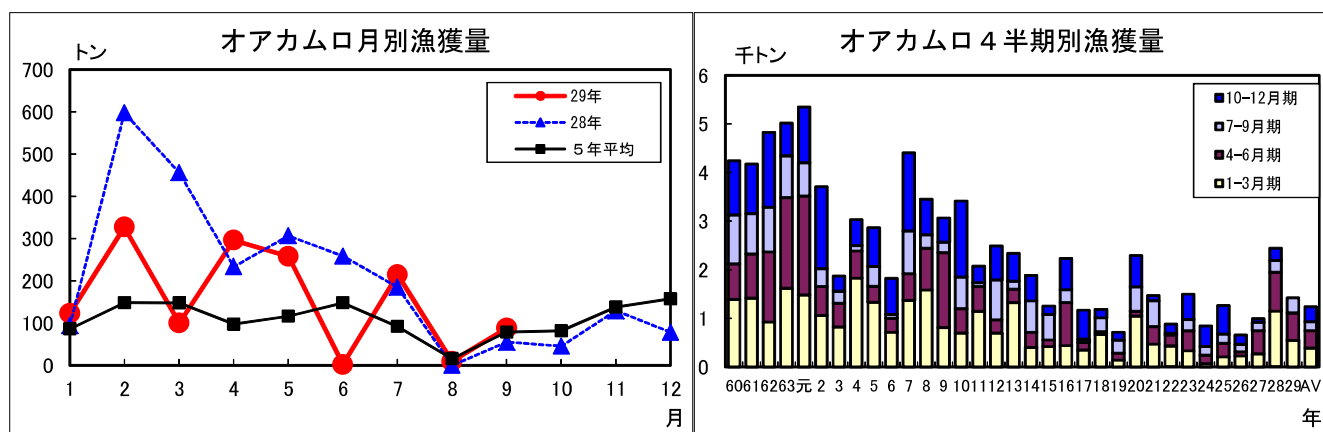


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値(AV)，平成 29 年 9 月 27 日までの水揚量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4 港計）〉

県内の平成 29 年 7 ～ 9 月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和 62 年から平成元年に 1,500 トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成 12 年から 15 年に再度ピークを迎え 15 年には 3,150 トンと最高を記録しましたが、平成 16 年以降は低調に推移し、平成 28 年は 323 トンとなりました。

4 港計のまき網では、串木野沖でアオアジ小主体の漁場が形成されました。期全体で 74 トンの水揚げで、前年の 121 % 及び平年の 100 % でした。

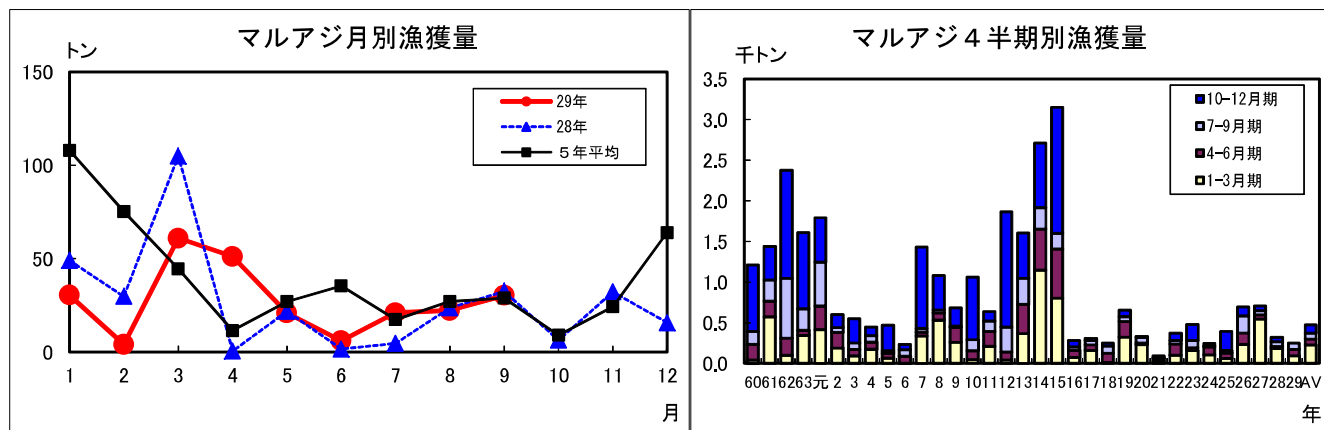


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 24 ～ 28 年）の平均値 (AV)，平成 29 年 9 月 27 日までの水揚げ量を使用